

法要の知識

法要の知識 I

法要に親類・知人を呼ぶときは、場所・日時に十分配慮を

- 初七日から四十九日まで
- 四十九日法要の手順
- 併修（へいしゅう）について

仏教では、故人の霊に供物を供えて冥福を祈り供養することを法要といいます。法要を営む際に大切なことは故人を偲ぶ気持ちです。葬儀が済むと、初七日から七七日（四十九日）の忌明けまで七日ごとに法要を行い、その後も一周忌、三回忌などの法要を故人の命日に営みます。もし、命日に法要ができない場合は、日程を繰り上げて行ってもさしつかえありません。

初七日から四十九日まで

仏教の場合、亡くなった日から忌明けまで七日ごとに法要を行います。

- 初七日（死亡した日を入れて七日目）
- 二七日（死亡した日を入れて十四日目）
- 三七日（死亡した日を入れて二十一日目）
- 四七日（死亡した日を入れて二十八日目）
- 五七日（死亡した日を入れて三十五日目）
- 六七日（死亡した日を入れて四十二日目）
- 七七日（四十九日、満中陰、しちしちにち）

正しくは初七日忌、二七日忌、三七日忌、四七日忌、五七日忌、六七日忌、七七日忌と続き、そのたびごとに僧侶を招いてお経をあげてもらいます。七七日忌（四十九日）を迎えると遺族にとっては「忌明け（きあけ）」となり、法要後、納骨となるのが一般的です。（神式は、五十日祭で忌明けを迎える。）合理的考え方の進んだ現代では、これら七日目ごとの法要も一度で済ませてしまうことがあります。火葬後すぐ「初七日」の法要を行うことは北海道地区では少なくありません。「四十九日」をも兼ねてしまうということもあります。

（アドバイス）

四十九日も火葬場から戻ったあとすぐに行うのは、遠方からきている親族、身内への配慮からの考え方です。通常は、地元に住む親族だけで「四十九日法要」を改めて営んでいる方が多いようです。もちろん「四十九日法要」を盛大にされる方もいらっしゃいます

<p>四十九日法要 の手順</p>	<p>納骨、埋骨を行うのが一番多い日が四十九日です。親族の都合や僧侶の都合もありますので事前の準備が大切です。確認事項を連記しましたので参考にしてください。</p> <p>①施主の決定②日程、費用などの決定③菩提寺への連絡④法要案内状の作成・郵送、連絡⑤式場の手配⑥宴席の手配⑦喪服の用意（準喪服でも可）⑧お布施の用意⑨引出物の手配（別冊商品カタログ「ふれあいギフト」をご利用下さい。）</p> <p>（アドバイス）</p> <p>●納骨、埋骨と四十九日法要を同時に行う場合と法要だけを営む場合、それぞれ準備することに多少の違いがあります。葬儀社や仕出し店、僧侶へ相談すると良いでしょう。</p> <p>●法要に親類・知人などを呼んで営む時、お寺、お墓、会席の式場が別々でそれぞれ移動する場合、土・日・祝祭日だと交通渋滞に巻き込まれることもあります。時間や交通機関に十分配慮したいものです。</p>
<p>併修（へいしゅう） について</p>	<p>年忌法要はできるだけ故人一人ひとりに対して行いたいものですが、ある年に年忌が重なる場合があります。その時、それぞれを独立させて行なうと参列者側、施主側も時間的・経済的に大きな負担になります。そこで、年忌法要をあわせて一度に行なうことを「併修（へいしゅう）」「合斎（がっさい）」とって、早い方の祥日命日（死亡した日と同月同日）にあわせて営みます。しかし、故人が亡くなって年月が浅い場合は、故人への思いが深い方も多いため、併修は避けたい場合があります。</p>

法要の知識 II

法要に親類・知人を呼ぶときは、場所・日時に十分配慮を

- 法要一覧
- 忌明けの挨拶状
- 四十九日法要での施主の挨拶

法要一覧			
仏式		神式	キリスト式
年忌法要		年祭	追悼ミサ・記念式
一周忌	(満1年目)	一年祭	カトリック (追悼ミサ)
三回忌	(満2年目)	三年祭	
七回忌	(満6年目)	五年祭	死去後数年間は1年ごとに記念式を行う
十三回忌	(満12年目)	十年祭	プロテスタント (記念式)
十七回忌	(満16年目)	十年祭以降は五十年祭まで十年ごとに行う	
二十三回忌	(満22年目)		
二十七回忌	(満26年目)		
三十三回忌	(満32年目)		
三十七回忌	(満36年目)		
五十回忌	(満49年目)		
百回忌	(満99年目)		死去後数年間は1年ごとに記念式を行う
※()内は死亡日を加えた日数です。			
忌明けの挨拶状	<p>北海道と本州の地域差がありますので注意が必要です。本州では、会葬者全員へ「無事忌明けを迎えることができました」という会葬御礼を兼ねて品物に挨拶状を添えて贈る場合と、ご挨拶状のみを送る場合があります。本州からの会葬者が多い場合、その地域ではあたり前のこととして先様に無礼を感じさせることがありますのでご注意ください。</p> <p>(アドバイス)</p> <p>一般的に「命日」といった場合は「祥月命日」を指していることが多いようです。また、月命日は年に12回もあるので、仏壇に新しい花や供物を備えたりする程度で十分でしょう</p>		
四十九日法要での施主の挨拶	<p>法要のあと会食の席へ移ったら、施主は冒頭で挨拶をする必要がありますので、言葉をまとめておくことをお勧めします。</p> <p>①列席してもらったことへのお礼 ②葬儀以来、何かとお世話になったことへのお礼 ③今後へ向けての決意 ④ささやかなもてなしをしたいこと ⑤結びのお礼</p> <p>【例文】 本日は〇〇（故人の名前）の四十九日法要にご列席いただき、</p>		



誠にありがとうございます。葬儀の節は、皆様には何かとご協力をいただき、深く感謝しております。今後は遺された家族が仲良く力を合わせていくことを決意しておりますので、今後とも宜しく願いいたします。ささやかではございますがご会食の用意をいたしましたので、ごゆっくりお召し上がりください。また、故人の逸話などを披露していただければと思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。